（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470501574		
法人名	株式会社厚生会		
事業所名	グループホーム なのはな		
所在地	津市柳山津興3306		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町提出日	令和3年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470501574-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 10 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設階下に協力医療機関である、ゆり形成内科整形があり、緊急時受診ができる等、密な医療連携のもと、医療度の高い利用者様、家族様にも安心頂ける体制になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺には食料品スーパー・大型家電量販店・衣料雑貨販売店などがあり、生活するには大変便利な環境である。また、母体の内科・整形外科の病院が同ビルの階下にあり、医療との連携は日常的にとられ、利用者・家族の安心に繋がっている。理学療法士によるリハビリのための機能訓練もあり、職員にとっても知識を習得できる有難い時間となっている。昨年度からのコロナ禍で外出や外食が制限されることが多かったが、できる限り事業所内で皆で楽しもうといろいろなイベントを企画し利用者を楽しませてきた。中でも、パラリンピックで紹介された『ボッチャ』を実際の道具を借りて実施し、利用者・職員で大変盛り上がった。職員がそれぞれのアイディアを出し合って工夫し、『心の癒しを介護の心得とします』と掲げた理念に沿った支援を実践している事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々に理念に基づき実施している。	設立当初から変わらず大切にしてきた理念は職員の目に付くいろいろな場所に掲示され、常に職員の介護の礎となっている。穏やかに利用者に寄り添うことを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時期的に行事の参加は難しいが可能な限り、運営推進会議には参加頂いている。	コロナ禍で祭り等もなく、事業所周辺を散歩する際に地域住民と挨拶を交わすことの他には地域交流はできなかった。地域の清掃活動には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の理解、支援の方法を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行ない意見をまとめサービス向上に活かしている	コロナ禍で自治会長や民生委員の参加はなかったが、市の職員や地域包括、家族の参加で隔月に開催している。事業所の現状を報告し、意見交換の貴重な場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所と連携を取り、協力関係を作るように取り組んでいる。	利用者に生活保護受給者が数名いるため、諸手続きで市の担当職員とは密に連絡を取っている。また、マスクや消毒液をもらいに行く度に助言をもらうなど連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	様々な研修を通じて職員一人ひとりが利用者に寄り添うケアを実践している。	独自の指針を作り、身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。体調の悪化で点滴をするときのみ家族の同意を得て片方の手を問題のない程度に拘束することはあるが、それ以外の身体拘束はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	様々な研修を通じて職員一人ひとりが利用者に最適なケアを実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な研修を行ない、職員一人ひとりが学び、話し合い活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者に契約に関する不安や疑問を尋ね、十分な説明を行ない理解、納得をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族、利用者の意見、要望を聞き、それらを事業所運営に反映させている。	コロナ禍で家族の面会はできないが、オムツを届ける機会に距離を置いて顔をみてもらっている。メールや電話で連絡をする時に意見や要望等を聞き、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、SNS等話し合いの場を設け、意見や提案を反映させている。	最近では定期的な全体会議はできていないが、2ユニットのリーダーが自主的にユニット会議を開き意見交換をしている。朝・昼・夕の申し送りで意見交換している。	職員がいろいろな意見を出し合い、皆で検討する機会となる全体会議は大切な場である。今後できる限り全体で意見交換ができる機会を持たれることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいをもって働けるように職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を受けることで職員の力量を把握し向上するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時期的に外部研修参加は難しく内部にて勉強会等を行ない、サービスの質を向上する様努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時等、利用者様に不安、要望等を聞き安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時等、家族様に不安、要望等を聞き安心を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時等、利用者、家族様から思いを聞き、サービス利用も含めた対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で職員、利用者の関係を築き満足してもらえるように努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族との絆を大切にし、ともに支えていく関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時期的に面会、行事は出来ていないができる限りの支援を行なっている。	コロナ禍で様々な馴染みの人や場との交流が例年のようにはできなかった。散髪については今まで来てもらっていたプロに頼めず、美容師の資格保有者である管理者が利用者全員の頭髪を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全利用者の関係、特徴を把握し利用者同士が支え合えるような支援を行なっている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも関係性を大切にし、必要時相談等に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者のニーズを把握、実施できるように努めている。	約半数の利用者が思いや意向を表出できないが、一人ひとりに寄り添ってその時々の表情などで把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の生活歴を尊重し、その人らしい暮らし方、生活環境を支援できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の24hシートを使用し、その人に合ったリズムで支援を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週サービス担当者会議を開催し、他職種との意見や話し合いを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングをし、変化がなくても3か月毎に利用者全員の介護計画の見直しをしている。利用者の現状に即した介護計画を常に心掛けている。管理者がケアマネージャーを兼務しているため、専任の配置要望を会社に出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート等を使用し職員間で情報を共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に生まれるニーズに対応して柔軟なサービスが出来るように支援を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加可能な状態であれば地域公民館等で開催している茶話会、出前講座等を利用して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部の病院を受診希望の場合、関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援していく。	入居時に利用者全員が階下の協力医を主治医とし、24時間医療提供を受けている。皮膚科・眼科等の専門医への通院は家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者との関わりの中で、情報や気づきを看護師に連絡、相談し適切な受診等を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報、サマリーを病院へ提供し早期退院できるよう関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族と充分に説明、話し合いしながら方針を共有しチームで実践できるよう努めている。	入居時や重度化した場合、終末期には医師や家族と話し合いを重ね方向性を決めている。ここ2年ばかり看取りはない。最近では重度化し急変した際には病院に救急搬送し入院となるケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行ない、急変時にはドクター、看護師の指示のもと対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っており、災害時にスムーズに実践できるよう努めている。	年２回、系列の病院や施設と合同で避難訓練を実施している。昨年の課題でもあり、様々な条件を想定した机上訓練も重ねてきた。発電機や備蓄倉庫も設備している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応を行なっている。	意見や要望が言葉にならない利用者にも笑顔で優しく寄り添い、本人の気持ちを読み取り、利用者本位の声掛けをしている。特にトイレ誘導時の声掛けは配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で各利用者と時間を作り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを大切にし、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望にそった身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に準備や、食事ができるよう支援している。	献立・食材の買い出し・調理までそれぞれのユニットで職員が手作りしている。コロナ禍であるため、利用者が調理に参加することはないが、おやつ作りには参加している。外食ができないかわりに、テイクアウトでお弁当を買うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った適切な量等、確保できるよう管理栄養士指導の下実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔状態、力に応じたケアを行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者各自の24hシートを利用し、排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行なっている。	リハビリの立位訓練でほぼ全員がトイレでの排泄ができている。夜間のオムツ使用はあるが、日中は全員がリハビリパンツ・パットを使用している。廃便が困難で薬を使用している利用者のサインには特に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、リハビリ、個別機能訓練の運動など個々に応じた予防を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットの個浴を使用し、利用者の要望、タイミングなどを考慮し、個々にそった支援を行なっている。	殆どの利用者が入浴を楽しみにしていて、週2～3回昼間に入浴支援をしている。体調によってはデイサービスの機械浴を使用することも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの24hシートを利用し、習慣を把握し、その時々の状況に応じた支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容を把握し、個々に応じた又、症状の変化に応じた対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、それにあった役割を提供し、気分転換等の支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望にそって極力、たいおうできるよう支援を行なっている。	今年度は昨年同様『津まつり』もなく、例年のように唐人行列を目の前で観る楽しみはなかった。リハビリを兼ねて周辺を散歩し、そのついでにスーパーで買い物をすることが楽しみの一つである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの希望や力に応じて買い物等の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望がある場合は電話等のやり取りができるよう支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間での生活感や季節感を取り入れ、心地よく過ごせるように工夫、支援を行なっている。	各ユニットの入り口には、今年度のイベントで楽しんだ時の写真が飾られ、和やかな雰囲気が感じられる。金魚や熱帯魚の水槽が置かれ、利用者が餌やりをして大切に飼育している。小上がりの畳スペースやソファを自由に利用しゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにソファー等を置き利用者同士で思い、思いに過ごせるように整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室に使い慣れたものや、好みのものを配置し心地よく過ごせるように工夫を行なっている。	居室にはベット・エアコン・洗面台があり、使い慣れた家具などを持ち込んでいる利用者もある。手作りの作品や写真を飾り、一人ひとり個性のある環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ、自立した生活を送れるよう、環境づくりに工夫している。		